

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ

第147版

理念と実践で 絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも
毎日元気に配信中!

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

園同士の学び合い



5領域の中から発達課題を選び実践して頂きました（一部抜粋）



01歳児、2歳児、3歳児編にシートを分け、参加園同士で共有しました

弊社主催、第3回『ミマモリグソフト』ウェビナーを開催しました。前編・後編の2部構成のセミナーで、前編は導入研修の内容をワークシヨップ形式で体験して頂き、後半は参加園の中から実践発表をして頂くプログラムです。今回、新たな取り組みとして「保育実践シート」を参加園同士で共有することをはじめました。これまでの2回のウェビナーでは、先生方に保育実践を取り組んでみてどうだったかなど、文章で記述し

たレポートを提出して頂いていました。しかし、文章だけでは具体的に実践して頂いた保育環境のイメージが湧かなかつたり、真似しようにも真似づらい状況がありました。また前回のウェビナーでは、参加園が実践発表を聞きたい他園の取り組みを選ぶ際、60例と実践数が多いため、投票が難しいなどのお声もありました。

社内の打ち合せでは、「先生方に写真付きのレポートを提出して頂けないだろうか？」

「確かにいいアイデアだけれど、先生方にレポートを作成して頂くのは大変なのでは？」
「でも60例の実践事例を参加園で共有が出来るって、すごくない!」など様々な意見が出た結果、新たな取り組みを実施させて頂くことにしました。

前編のウェビナーが終わり、保育実践期間とレポートの提出期限は2週間後。その間、先生方は保育実践をし、私たちはレポートが届くのだろうかと不安と期待を抱きつつ、提出されるのを待っていました。そして、待望の1園目の実践レポートが届くと安堵感と同時に、実践レポートの内容の濃さにも驚かされました。

最初に提出頂いた園のレポートは、他の参加園の参考になればとの思いで、メールで紹介をさせて頂きました。これは先生方が普段の保育の中で発達の進んでいる子が他の子のモデルとなるような環境設定をされているように、私たちもウェビナーの運営で取り入れさせて頂きました!

その後、レポートのご提出は続き、参加園数と同じほどの実践シートが集まりました。どの実践も内容の濃いものばかりです。



「保育実践シート」の詳しい内容については、こちらのQRコードからご覧いただけます。今回の参加園からは、24の事例レポートが集まりました。

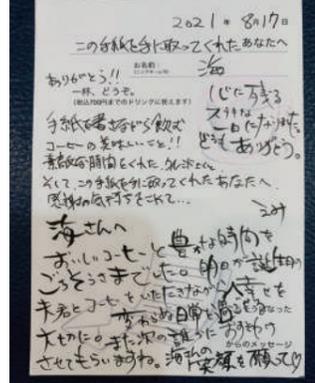
未だ見ぬ誰かへ

東京都国分寺市にある、クルミドコーヒーさんへお伺いした時のことです。席に案内いただき、メニュー内にこんなお知らせがありました。「お手紙コーヒー（恩送りコーヒー）ははじめます。手紙を送るように、未だ見ぬ誰かにコーヒーを贈ってみませんか。あんな人、こんな人、思い浮かべて、メッセージを添えて!」

誰かが書いてくれた手紙が店内のある場所に飾られていて、その手紙を書いた方が支払ってくれたコーヒーを無料でした。未だ見ぬ誰かを想って手紙とコーヒーを贈ることも出来るようになっていきます。是非とも体験してみたい!という事でお手紙コーヒーと自分が飲むコーヒーを注文し

てみることに。コーヒーを飲みながら手紙を書いてみると、「未だ見ぬ誰かを想いながらコーヒーを飲む」という何とも豊かで幸せな時間が訪れました。この豊かな時間こそが「お手紙コーヒー」の味わいであり、お店が提供しているメニューなのだと思えます。その一ヶ月後、私の書いた手紙でコーヒーを飲まれたご夫婦からお返事が来ました。私とご夫婦両方のメッセージが書かれたそのハガキを見ながら飲むコーヒーはまた格別で、自宅でも豊かな日々を過ごせるようになりました。コロナ禍でも、こんなふうにと人と人とを繋げ、心を豊かにしていく場づくりの根幹は「恩送り」という感謝の循環にあるのだと学びました。

カグヤのオンラインセミナーでもこの知恵をお借りし、誰かの実践が誰かの園の子どもたちを幸せにしている場作りとしていけたらと思います。そして「ありがとう」が生まれる場づくりを目指していきたいと思えます。



カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

実りの秋



拾ったばかりの銀杏をその場でいただくと、なんだか縄文体験のようでもあり、とても楽しい気分!

福岡県の菓匠古民家「和楽（わら）」の庭にはシンボルツリーとも言える大きな銀杏の木があります。

銀杏はおいしいだけでなく、高血圧と動脈硬化予防や疲労回復、美容効果があるため、せっかくなので実を拾っていただくことに。（ただし中毒成分があるので食べ過ぎは注意です。）

銀杏の実の処理は、高圧洗浄機という文明の利器との合わせ技でいい感じ

日本の智と慧

つづれさせ蟋蟀

晩夏から鳴き始めた蟋蟀（コオロギ）の声は、寒さが増すと少し悲し気になると言います。先人はその変化をとらえ、その声を「綴れ刺せ」と聞きなして着物のほころびを縫い直したと言います。それが「つづれさせ蟋蟀」です。その様子を京都の人はこう伝えました。《つづれさせかとうさせ 早よ冬支度をしなさいと虫たちはそう言うて秋をうたっているのんえ。つづれさせかとうさせ小さい私に母さんがそつと教えてくれた／つづれさせかとうさせ今年



外国人には雑音としか聞こえないという「虫の音」をメッセージとして受け取る日本人の感性と智慧を引き継いでいきたいものです。

も秋を歌ってる忙しく休みなく母さんの手が動いてる《おばあちゃんからお母さんへ、そして娘へと虫の声を借りて生活の智慧を伝えていたのです。こう続きます《つづれさせかとうさせええお嫁さんになるのんえとそつと教えてくれてはるそつと教えてくれてはる》

実は蟋蟀の方も代々その鳴き声を引き継ぎ、冬支度を見守り続けてくれているのでしょうか。《つづれさせかとうさせ》角田知子詞



樹齢200年以上とも思われる銀杏の木は圧倒的な存在感で落ちた実の量も圧倒的!

に実がとれました。通常2、3日ほど天日干しするようですが、我慢できず早速炭火で頂いてみると、香ばしくホクホクしてとてもおいしい秋の恵みに感動。一緒に拾った方々もほとんどが人生初の銀杏拾いでもあったので「実をむかないと食べられないんだ」「食べ過ぎはダメなの?」「乾かすと白く変わってる!」など沢山の発見が。

「実りの秋」と言われるとおり、秋には野菜や果物など多くの食物が収穫の時期を迎えますので、日本の豊かな自然の中で育まれてきた旬の食材に感謝しながら、子どもたちと共においしく楽しく食の大切さを学ぶ大事な機会にできたらいいですね。

一期一会庵

保育のもつ豊かさ

先日、自然農の畑に高菜の種まきをしました。

この高菜の種は、伝統の固定種と違って遺伝子操作されたり科学的に改良された種ではなく、先人たちが何代もかけて手塩にかけて育ててその土地の風土や育てる人間好みに育ってきた伝統の種です。この種を毎年蒔いて育て続けなければ、この何百年も続いてきた種が失われてしまいます。言い換えれば、何百年も育ててきたからこそこの種を私が持っているということになります。

この時間軸を想像するとき、本当に多くの方々が大切に育ててこま

で守ってくださった種なんだと感謝の気持ちが湧きあがります。またその種を本当の意味で守るには、その時代時代で収穫した野菜を活かし続ける必要があります。私は、それを高菜漬けにして多くの人たちに味わってもらおうことや一緒に畑で学び合うことでの種を活かしています。

この高菜の種を育てるということは毎年の物語もあるということですが、それは畑を通して、種にとっては色々な出来事があり困難や歓喜などもあります。一喜一憂しながらも、

一期一会の種と一年を過ごしていくのです。

この豊かさ、人間の子どもではありませんがまさに保育の喜びと仕事を共感します。そう考えると、私たちは豊かな物語を生きた種を持っているということですが。

同様に、子どもたちもその種のように豊かな物語を生きてきて繋がりが結ばれた存在です。前の世代、そのずっと前の世代から連綿と種を蒔き続けて今があります。

どんな種もまた見事な一生を送ります。その一生を見守る存在が環境ということになります。

どのような環境を見守っていくか。その舞台で子どもたちは一生を謳歌していきます。自分が見守られていくことが種を育てていくことです。

子どもたちのためにもみんなのでその保育のもつ豊かさを味わい、与えていただいた徳を譲っていききたいと思っています。



編集後記



子どもの姿に勇気もらい明日も頑張らましよう。

緊急事態宣言が明け、コロナの感染者数も減っています。このまま終息?と思いたいところですが、この約2年間で生き方も働き方も、コミュニケーションの取り方も多岐にわたって変化しました。何をもち終息と言っているのか、今までの価値観では語れなくなっています。

私たち大人はコロナがない世界が「当たり前」でしたが、子どもたちは今まさに経験していることが「当たり前」になります。どんな状況でも柔軟に対応していく子どもの姿は頼もしく、大人が「できない」と尻込みしている場合ではなさそうです。（眞田由莉）

カグヤは「子ども第一義」の理念を实践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

